

人間の安全保障フレンズグループ共同議長主催
2026年人間の安全保障アワード式典
英利政務官冒頭挨拶

- アレクサンダー・ドゥ=クローUNDP 総裁、
キャサリン・ラッセル UNICEF 事務局長、
ロベルト・サンチョ・コスタリカ国連常駐代表臨時代理、
モハメット・ラディアンヌ・セネガル国連代表部一等参事官、
御列席の皆様、
第一回目となる記念すべき人間の安全保障アワード式典への参加を光栄に思います。
- 2012 年、国連総会は、人間の安全保障に関する総会決議を採択しました。そして、この一人ひとりに着目するという考え方は、「no one left behind」という SDGs の根底理念にもつながっていききました。
- 2016 年から 2022 年までの約6年、私はここ国連で勤務しました。いま、ここに立つにあたり、当時のことを思い出しておりました。
- 国際社会は、紛争、貧困、気候変動、災害、コロナ禍をはじめとする感染症の広がりなど、様々な地球規模課題に直面してきました。
- こうした中、今日の多国間システムの中核にある国連の場で、人間の安全保障フレンズグループがその活動を積極的に展開し、同概念の意義と妥当性を世界に向けて広く発信していることは

素晴らしいことです。

- そして、フレンズグループ共同議長のリーダーシップの下で「人間の安全保障アワード」が創設され、本日、同概念の普及に顕著に貢献した案件の功績が称えられることを心より歓迎します。この後、そのような栄誉ある受賞案件が発表されることを楽しみにしています。
- この人間の安全保障アワードの取組を通じて、同概念に対する人々の理解が一層深まり、またその効果的実践が拡大していくことで、世界の人々の尊厳の確保に繋がることを期待します。
- ご列席の皆さま、
日本は、世界が直面する課題に、各国政府や国際機関のみならず、市民社会やビジネスとも協力し、解決策を共に創ってきました（co-creation）。私は“静かなリーダーシップ”と呼んでいます。普遍的価値観を着実に国際社会と共に守っていく。日本は、人間の安全保障を柱として、外交、そして国際協力を進めていく考えです。
- 人間の安全保障フレンズグループへの参加国、今回のアワード受賞案件の実施機関を含む国連機関、ならびに国連人間の安全保障ユニットの日頃からの活動に敬意を表しつつ、私の挨拶といたします。
- ありがとうございました。

（了）